

# 北前船と北海道

## 第2回 道南編(松前・函館)

高野 宏康 (たかの ひろやす)

小樽商科大学グローバル戦略推進センター 客員研究員

博士(歴史民俗資料学)。専門は、北前船学、地域資源論。全国各地の北前船寄港地・船主集落の調査と活性化事業に取り組む。1974年、「北前船の里」で知られる石川県加賀市橋立町生まれ。明治大学卒。神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科博士後期課程修了。地域レジリエンス株式会社代表取締役、NPO法人歴史文化研究所代表理事、北前船子どもフェリー使節団実行委員会事務局長、小樽市日本遺産ストーリー検討WG委員、おたる案内人マイスター。



### 1 道南と北前船

道南は北前船と古くから深い関わりがあります。江戸時代、蝦夷地(北海道)では、松前藩が漁業とアイヌ交易を商人に請け負わせる、場所請負制をとっていました。近江商人をはじめ様々な商人が北海道に進出し、場所請負人となりました。松前藩は、道南の松前(湊は福山)、江差、箱館の三湊のみを交易湊と定め、他の湊には本州から来る廻船の寄港を認めませんでした。そのことが北海道の北前船寄港地という現在でも道南イメージが強いこと背景となっています。

松前藩は廻船から出航税を取っており、船の大きさに応じて税額が決まる仕組みでした。そのため、北前船交易に使用された弁財船はずんぐりした独特の形態となり、「北前型弁財船」と呼ばれ、菱垣廻船や樽廻船で使用されたものとは異なっています。

道南エリアでは、平成29(2017)年に、松前町と函館市が日本遺産「北前船寄港地・船主集落」に認定され、ストーリーと構成文化財を活かした様々な取り組みが進められています。

### 2 松前町の北前船ストーリーと構成文化財

かつて松前では、春、海の色を変えるほどニシンの大群が押し寄せました。17世紀、松前に店舗を開設した近江商人は、松前のニシン、昆布、干しあわびなどの産物を京都、大阪などの市場で売りさばき、代わりに呉服物、米、味噌などを松前に運んで商いをしました。物資だけでなく京都の文化がもたらされ、花開き

ました。寺院の庭園樹、桜、椿などの多くはこの頃、松前に運ばれたと伝わります。松前町の日本遺産「北前船」構成文化財は以下の10件が認定されています。

#### (1) 福山波止場

江戸時代から松前城下の前浜の岩礁には、船舶の係留杭が設置されていました。明治6(1873)年に栖原小右衛門が自費で港内の崩落箇所修理と、長さ14間、高さ一丈(約3m)の石垣を築きました。その後、豪商有志が波止場建築のため寄付金を集め、不足分を明治政府から借入れ、石工・井上喜三郎に委託して明治8(1875)年に福山波止場が完成しました。波止場は二基あり、大松前波止場は65間(約118m)・高さ一丈、小松前波止場は85間(約154m)・高さ一丈で、明治23(1890)年の小破修理を経て現在に至っています。



#### (2) 沖口役所

沖口役所は、松前三湊(松前・江差・箱館)に置かれた役所で、税関と入国管理局を兼ねた機能を持つ旅

人の身柄確認や船舶・積荷の取り締まりが主な任務でした。不審な者・引受人のいない者、刺青や刀傷のある者などは、松前への入国が許されませんでした。また、出入りの船舶・積荷には沖口役所で役金が掛けられ、文化4（1807）年には藩収入の3分の1弱にあたる11,658両に達しました。



### (3) 松前屏風

松前屏風は、松前出身の画家・龍田齊見玉貞良りゅうえん さい こだまていりょうによって、宝暦年間（1751～63）の松前城下の秋を描いたものといわれています。この屏風は、小樽内場所の請負人であった、近江八幡の恵比寿屋岡田弥三右衛門が、松前で出店の繁盛を後世に伝えるために描かせたと考えられています。ここに描かれた風景は、約260年前の松前城下であるが、町割りは現在と比較してもほとんど変わっていません。

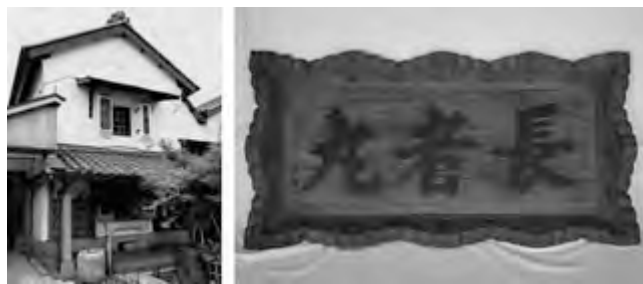


### (4) 松本家土蔵および松本家資料

松本家は、近江商人・柏屋藤野家の手船である長者丸の船頭を務め、代々、金蔵を名乗り、新組御徒士格（士分）でした。松本家土蔵は、交易のための商品保管のため、天保2（1831）年に初代松本金蔵によって建築されました。一階部分の壁の半ばまでは越前産の笏谷石しやくたにいし作りで、これより上部は木造の堅牢な造りとなっています。

松本家資料には、航海日誌など北前船交易を示す文

書資料や、船名額などがあります。長者丸は、平時は北前船として各地を航行していますが、松前藩主の参勤交代に際しては、松前藩御召船となって藩主一族を乗せ、津軽海峡を渡りました。長者丸関連の資料として、船名額、船名旗、針、船中諸掟書、航海安全の護摩札、商品の仕入れにかかる大福帳などがあります。



### (5) 福山城下町遺跡

福山城下町遺跡は、福山城（松前城）を中心に、海岸沿いに商人の出店や廻船問屋などの店舗が展開した町屋跡です。近年の発掘調査により、土蔵の土台や建物礎石、陶磁器・金属製品・木製品などが出土しています。



### (6) 龍雲院

寛永2（1625）年に松前家7世公廣きんひろの正室桂子の発願により創建されました。本堂の西に海上航行の安全つかさどを司る龍神を祀る龍神堂があります。本堂・庫裏くらりはともに天保13（1842）年の建立で、本堂は北越宮川（新潟県柏崎市）の大工、庫裏は地元松前の大工によって建てられました。鐘楼は弘化3（1846）年、土蔵は弘化3年までに建てられたとされ、惣門そうもんは嘉永4（1851）年の建立です。龍神堂は文政13（1830）年の建立ですが、箱館戦争で破損したため、明治6（1873）年に再建されました。龍雲院は、江戸時代以来の伽藍をとどめている建物として貴重です。



### (7) 松前藩主・松前家墓所

松前家菩提寺・法幢寺の境内北側に歴代藩主たちの墓標55基が立ち並んでおり、このうち23基は越前式石廟が採用されています。17世紀～18世紀中葉までは笏谷石製であるが、18世紀後葉以降は瀬戸内産花崗岩製となります。



### (8) 松前沖揚げ音頭

江戸時代末期、ニシン漁の盛行により、前浜では多くの漁夫（ヤン衆）を引連れて厳しい一連の作業が行われました。作業には船漕ぎ、網起こし、沖揚げ、子叩きなど、それぞれに特有の歌が生まれ、これらの作業歌は「鰯場音頭」や「沖揚げ音頭」と呼ばれるもので、道南各地から北海道の沿岸地域で伝えられています。松前地方ではいつごろから歌われていたか定かではありませんが、ニシン漁が盛行する幕末には既に歌われていたと考えられています。



### (9) 難船図絵馬

難船図絵馬は、近江商人・恵比寿屋岡田家の手船「叶丸」の船頭「佐々木多六」によって、慶応3（1867）年4月に、札前の渡海神社に奉納されたもので、大坂の絵馬師・吉川芦舟の作です。絵の内容は、船が荒波にもまれ、帆をおろし、今まさに転覆寸前という危機的状況の中で、瑞雲に乗った神が「御幣」に姿形を変えて助けに現れるという場面が描かれています。



### (10) 松前祇園ばやし

松前祇園ばやしの起源は定かではありませんが、文化・文政期に記されたとされます。『松前歳時記草稿』によれば、松前城下七社大祭礼の際の山車巡行の囃子の曲として近江から伝わります。往時は15の音曲があったとされますが、明治以降の松前城下衰退とともに廃絶し、現在は4基の山車に付属する12曲が伝わります。



### 3 函館市の北前船ストーリーと構成文化財

函館は、江戸時代、「箱館」と呼ばれ、松前、江差と並ぶ松前藩の交易港でした。当初は北前船にとっては魅力に乏しかった箱館は、東蝦夷地の幕府直轄によって一変します。東蝦夷地のアイヌ交易により、そ

の産物が箱館経由で流通するようになると、北前船の来航が急増したのです。箱館奉行によって進められた市街地整備は北前船の富が加わって加速しましたが、その中心となったのが豪商・高田屋嘉兵衛でした。函館市の日本遺産「北前船」構成文化財は以下の5件が認定されています。

### (1) 函館山

北前船の船乗りたちが出港前に日和をみた場所です。それぞれの頂きに「観音山」「薬師山」といった名称があり、江戸時代には「函館山」と表記されることはほとんどなく、まれに「がきゅうざん臥牛山」と表記されることがあります。



### (2) 箱館奉行所

開港により幕領となった函館に五稜郭が築造され、その中に奉行所が建設されました。明治4（1871）年に解体されましたが、平成22（2010）年に復原されました。奉行所の東石には越前産の笏谷石、屋根瓦には越前瓦が使用されています。



### (3) 高田屋屋敷跡

高田屋嘉兵衛のあとを継いだ金兵衛（嘉兵衛の弟）が幕府の許可を得てこの地域5万坪を拝借し、その一角に豪壮な邸宅を建てました。その規模は敷地面積で2町（約220m）四方もありました。金兵衛は、港に

続く堀割りを作り排水し屋敷地とし、池や築山のある屋敷を構えました。



### (4) 高田屋本店跡

北前船で財をなした高田屋が商売の拠点をついた店舗跡です。寛政10(1798)年、高田屋嘉兵衛は大町に本店を構え、弟の金兵衛を支配人としました。嘉兵衛は幕府との結びつきを強め、蝦夷地御用船定雇船頭なども務め高田屋を発展させていきました。船乗りにとって目印になったり、日和山の役割もあったのかもしれませんが。



### (5) 葭島神社

北前船主たちが寄進した奉納物がある神社です。もとは弁天崎という湾口にありましたが、安政年間に弁天岬台場の築造にともない、現在地に移築されました。鳥居は橋立（石川県加賀市）の船主たちが寄進したものです。



【参考資料】日本遺産北前船データベース（北前船日本遺産推進協議会）<https://kitamae-bune-db.com/db/>

※ 北前船・北海道観光ルートガイド

文化庁によって日本遺産に認定されている北前船の寄港地、函館と松前、そして、ニシンの繁栄でにぎわった江差をめぐる観光パンフレット  
<https://www.hakobura.jp/news/335>